

平成29年度前期 学群(学部)教育改善計画

学群(学部)名	事業構想学群(学部)
学群(学部)長名	風見正三

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群(学部)で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、昨年度から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。		
①	課 題	講義の理解を深めるための授業計画や効果的な伝達方法の明確化を進める必要がある。
	理 由	予習・復習の進め方や参考事例等の明記が不十分であり、授業計画への精緻化が期待される。
②	課 題	学部や学群の特性や履修モデルを明確化し、効果的なアクティブラーニングの導入検討が必要である。
	理 由	各教員のアクティブラーニングに対する理解度には差があり、学類毎に科目特性を踏まえた方法論の検討を行う必要がある
③	課 題	授業運営における戦略的な授業管理メソッドの検討が必要である。今後、効果的な学習支援システムの充実を図ることが求められる。
	理 由	Moodle の活用方法については定期的に講習を行ってきているが、これらを含めた効果的なツールの検討も必要である。
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。		
①	予習・復習の実態把握を踏まえて、講義の予習や復習のあり方やプロセスについて、スチューデントセンターWG にて検討を行い、その分析結果を教員連絡会議で情報共有する。	
②	学科及び学類のWG を定期的に開催し、学類毎の履修モデルを検討し、その経過報告を教員連絡会議やFD で共有するとともに、それらの課題を施設・予算委員会で検討し、環境整備計画に反映させていく。	
③	Moodle を含めた授業管理メソッドを比較考察し、スチューデントセンターWG を中心にとりまとめ、教員連絡会議にて、教職員の情報共有を進める。	

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
・ホワイトボードへの板書を増やしていくことで学生の集中力をあげる。 ・小グループによる話し合いを増やし、発表機会を設けていく。 ・参考となる事例を取り上げるとともに、事例視察を取り入れていく。	
2-(2). 上記の事例を学群(学部)の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
授業改善計画の実践例について教員連絡会議にて情報共有を図るとともに、PBL やアクティブラーニングの実践的なノウハウについて各学類のWG チームにて調査研究や情報共有を進めていく。教員連絡会議やFD において、定期的に授業改善に関する議論の場を設定し、学類毎の進捗状況をモニタリングしていく。	